The Society of Socio-Informatics

青少年のLINE利用の実態に関する探索的研究

—高校生のLINE利用に伴う肯定的・否定的経験に基づいて—

Exploratory Study of LINE Use of Teenagers: Based on Positive and Negative Experiences of High School Students about LINE Use

加藤千枝
Chie KATO

青少年とインターネットについて考える会　Association for Study of Teenagers and the Internet

Abstract In this study, semi-structured interviews were carried out to twenty high school students to clarify how they use LINE, an IM application which is nowadays extremely common among teenagers in Japan. As the result, we found three points. Firstly, most of the students use LINE to communicate with close friends. However, they were tired of communicating with friends because they had to keep responding to messages from their friends to keep good relationships. Secondly, some students had episodes to get to know strangers on LINE. Although they could make new friends and acquaintances through it, some of them got into troubles to realize online dating. Thirdly, most students mentioned its usefulness to communicate with others rapidly and smoothly. On the other hand, some of them sent messages without caring about others and had troubles because of messages.

キーワード　青少年，LINE，インスタントメッセンジャー，携帯電話，スマートフォン

１．本研究の目的

本研究では青少年の LINE 利用に注目し，そこでの肯定的・否定的経験に関するエピソードを収集した後にそれらを分類・考察することで，青少年の LINE 利用の実態を探索的に明らかにすることが目的である．

１．１．青少年へのネット端末の広がりと「SNS」利用

多くの青少年が携帯電話やスマートフォン等のネット端末を所持し，他者とメールをしたり，「SNS」を介してやりとりしたりしている．例えば「SNS」について，総務省（2009）は「人と人との繋がりを促進・サポートする機能を持ち，ユーザー間のコミュニケーションがサービスの価値の源泉となっている会員専用のウェブサービス」と定義しており，内閣府（2013）が小中学生と高校生（1,867 名）を対象に行った質問紙調査によると，「SNS」利用は学年が上がるにつれて活発化し，高校生になると 36.0%の者が「SNS」を利用していることが明らかとなっている．

１．２．青少年の「SNS」とインスタントメッセンジャー利用

先行研究より，特に高校生が「SNS」を利用している可能性が示唆されたと言えるが，彼・彼女らはどのような理由から「SNS」を利用しているのであろうか．例えばリクルート進学総研（2012）の調査結果によると，「親しい者とのコミュニケーションツールとして」SNS を利用していると回答した高校生は約 7 割に上った（67.0%）．それゆえ，高校生は既存の親しい者とのやりとりの為に利用していることが考えられる．

一方で「SNS」を利用する上でのデメリットも存在する．例えば「SNS 疲れ」がその一つとして挙げられよう．「SNS 疲れ」は「mixi 疲れ」に関する研究が多く，例えば高橋ら（2012）は「mixi 疲れ」が発生する原因について，「異なるウチの仲間をマイミクとして登録し，増やし過ぎた結果，誰もが受け入れることのできる当たり障りのないことしか書けなくなってしまう」為，引き起こされるものであると説明している．つまり「mixi」の例で言えば，親しい者とだけでなく，それ以外の者と「SNS」でやりとりすることにより，「SNS 疲れ」が引き起こされると考えられる．それゆえ「SNS 疲れ」を避け，親しい者だけとやりとりする為に，例えばインスタントメッセンジャー（以下，IM とする）を利用する者がいることも予想される．富田（2002）は IM を「友達がオンラインであればすぐに分かり，その場でメッセージを交換したり，チャットを始めることができる無料ソフト」と定義しており，高校生に限らず青少年が積極的に利用している IM の一つに，LINE（line.naver.jp）が挙げられる [1]．LINE はサイトに接続していなくても（オンラインでなくても），自身がスマートフォン所有者である場合，他者からメッセージが送られてきた際，即座に通知をしてくれる．それゆえ LINE を利用することにより，他者とのリアルタイムなやりとりが可能となる．そのような特性故か，近年 LINE の利用者が急増している．

LINE を運営する LINE 株式会社の発表によると，サ

NII-Electronic Library Service

The Society of Socio-Informatics

ービス開始から約19か月で登録ユーザー数が世界で1億人を突破し（2013年1月18日時点），日本のユーザー数は4,150万人以上となっている．これは2004年にサービスを開始したmixiと比較してもユーザー数の増加が著しい（2012年9月時点のmixi登録ユーザー数は1402万人）．

青少年のLINE利用に関する調査・研究は少ないが，例えばデジタルアーツ（2012）が10～18歳の青少年と保護者の1,236名に対して行ったインターネット調査によると，青少年のLINE利用率は42.1%であった．特に高校生女子の利用率が高く，70.4%となっていた．上記はインターネット調査であり，また，同社はフィルタリングサービスを提供している会社であることから，ネットを日常的に利用しており，メディアリテラシーの比較的高い者が主な回答者であると考えられる．しかしながら上記の調査より，青少年のLINE利用の広まりを窺い知ることができる．

また，ライフメディア（2012）が10～60代のスマートフォン利用者3,706名を対象に行った調査によると，LINE利用者は1,163名（31.4%）で，その利点として6割以上が「音声通話が無料」であること，7割以上が「簡単にメッセージが送れる」ことを挙げていた．上記の調査は青少年のみを対象としたものではないが，青少年も同様の理由から，LINEを積極的に利用していることが考えられる．

１．３．LINE利用に伴うトラブルの発生

LINEはネット上のサービスであることから，それを利用することで青少年は利益を享受するだけでなく，複数のトラブルに巻き込まれることも予想される．その一つに社会的な問題となりつつある，LINEを介した出会いの実現に伴うトラブルが挙げられる．LINEはIDさえ把握していれば相手との直接のやりとりが可能になることから，既存の知り合いだけでなく，見知らぬ者と繋がる可能性がある．また，偶然にも見知らぬ者とLINEで繋がった場合，その特性から「自己開示」「自己呈示」が促され，両者の親密性が高まった結果（木内ら，2008），ネットを介した新たな出会いが実現されることも考えられる．実際，運営会社は18歳未満の青少年が出会いの実現に伴うトラブルに巻き込まれることを防ぐ為，一部の利用者の機能制限を実施しているが[2)]，LINE利用に伴うトラブルの発生は出会いに関するものだけでないと言える．それにも関わらず，社会的な関心としてはLINE利用の広まりやその利便性に注目したものが多いと思われる．そこで本研究では，先行研究を踏まえて青少年の中でも高校生を対象に面接を実施し，LINEを利用する中での肯定的・否定的経験に関するエピソードを収集した後にそれらを分類・考察することで，その実態を探索的に明らかにしたいと考える．

２．方法

２．１．面接対象

本研究の目的に基づき，2012年10月～12月にかけて，関東近郊A・B県の15～18歳の高校生を対象に半構造化面接を実施した．半構造化面接を用いる理由としては，構造化面接を用いるほど青少年のLINE利用の実態が社会的に把握されていない為，また，非構造化面接を用いることでその実態を捉えきれなくなるというリスクを避ける為である．加えて，本研究では高校生を対象に面接を実施するが，その理由として先にも言及した通り，多くの高校生（特に女子）がLINEを利用していることが明らかとなった為である．また，高校生は自分専用のネット端末を所持し，「SNS」を始めとする様々なネット機能を比較的自由に利用していることが予想される為である．

２．２．面接協力者の募集

高校生に面接依頼を行うにあたり，彼・彼女らが発信しているサイトに付属している「メールボックス（加藤，2012）」から，本研究の目的を明記したメッセージを送った．なお，本研究では面接協力者の募集に際して「メールボックス」を用いたが，その理由として，「メールボックス」が最も効率的に協力者を募集できる手段であると判断された為である．具体的に，「メールボックス」はサイト発信者と直接連絡を取ることが可能なサイトであるし，互いの個人情報を保護した上で，連絡先の交換も容易にできる．そのため，本研究では「メールボックス」を面接協力者の募集に利用した．

約550名に対してメッセージを送った結果，面接実施に応諾したのは7名であった．また，筆者が主要駅で行った街頭インタビューに参加した15名からも協力を得て，計22名に対して面接を実施した．その結果，LINEを利用しているのは20名（90.9%）であったので，本研究では20名への面接結果を整理する（表-1）．なお20名からは，面接結果を公開することに同意を得ている．

２．３．質問項目

質問項目については本研究の目的に基づき作成した（表-2）．また，補足的な情報として，現在主に利用しているネット端末についても尋ねた．

表-1 高校生20名のプロフィール

協力者	学年	性別	利用端末	協力者	学年	性別	利用端末
A	1年	女	スマートフォン	K	2年	男	スマートフォン
B	1年	女	スマートフォン	L	3年	女	携帯電話
C	1年	女	スマートフォン	M	3年	女	スマートフォン
D	1年	男	スマートフォン	N	3年	女	スマートフォン
E	2年	女	スマートフォン	O	3年	女	携帯電話
F	2年	女	スマートフォン	P	3年	女	スマートフォン
G	2年	女	スマートフォン	Q	3年	男	スマートフォン
H	2年	女	携帯電話	R	3年	男	スマートフォン
I	2年	女	スマートフォン	S	3年	男	スマートフォン
J	2年	女	スマートフォン	T	3年	男	スマートフォン

表-2　質問項目

NII-Electronic Library Service

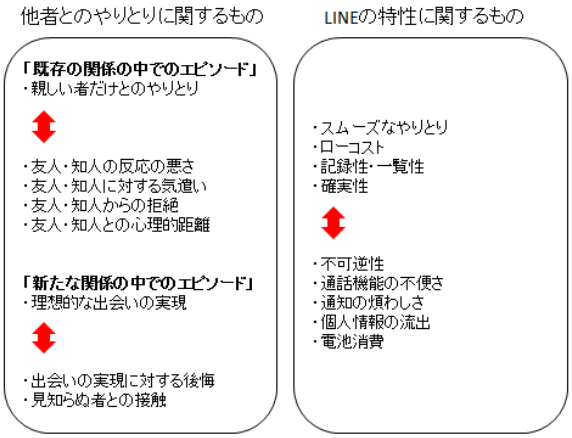
II-2 メディア・情報行動2（青少年）

1. （肯定的経験）LINE を利用していて良かったと思う点やそれに関するエピソードについて教えてください．
2. （否定的経験）LINE を利用していて嫌だと思う点やそれに関するエピソードについて教えてください．

３．分析

面接によって得られたエピソードを整理するにあたり，まず，面接結果を切片化し，それぞれにコード名を付した．その後，それらを分類する中で下記のように整理することが妥当であると考えられた（図-1）．

図-1 LINE 利用に伴う肯定的・否定的経験



４．結果

分析より得られた図-1 の内容に基づき，結果を整理する．

４．１．「他者とのやりとりに関するもの」

「他者とのやりとりに関するもの」とは，「既存の関係の中でのエピソード」「新たな関係の中でのエピソード」の2点に分類される．LINEを介した肯定的・否定的経験を指す．

４．１．１．「既存の関係の中でのエピソード」

(1) 「親しい者だけとのやりとり」

「親しい者だけとのやりとり」とは，LINE を利用することで自身が繋がりたいと思う相手とのみ，繋がることが可能になるというものである．この点に言及したのは，E・G・N・R さんの４名であった．

【E さん】良いところは，基本仲のいい子とだけやりとりすれば良いんで．それがすごい良いです．mixi とかだとあんまり仲良くない子から申請とか来たりするんで．いろいろ考えなきゃいけなかったり．

(2) 「友人・知人の反応の悪さ」

「友人・知人の反応の悪さ」とは，現実世界で交流のある者から LINE を介して即座にメッセージが得られないというものである．この点に言及したのは，A・L さんの２名であった．

【L さん】でも（LINE の嫌なところは）「既読」ってなっているのに，（相手がメッセージを）返してくれなかったりとか．「読んでいるのに，何で返してくれないの？」みたいなのはありますね．

(3) 「友人・知人に対する気遣い」

「友人・知人に対する気遣い」とは，現実世界で交流のある者との LINE を介したやりとりの中で過剰な気遣いをしてしまうというものである．この点に言及したのは，B・J・K・L・M・Q さんの６名であった．

【B さん】仲良いっちゃ良いんですけど，微妙な子とかも（友達リストの中に）いるから「どうしよう」って．友達になった方がいいのかなって，迷います．
【M さん】「既読」が面倒．気づいているけどすぐに返したくないとき，そういう時は開かない．なんか，（メッセージが）出ても「閉じる」ってやって，できます．すぐ返さないと他の人から「何？」って思われるのが嫌だし．

(4) 「友人・知人からの拒絶」

「友人・知人からの拒絶」とは，現実世界で交流のある者から LINE でのやりとりを拒絶されるというものである．この点に言及したのは，E さんのみであった．

【E さん】嫌なところは，知らない間にブロックされたりとか．なんかこっちが（メッセージを）送っても反応ないからなんだろうって思っていたら，ブロックされていた，みたいな．「なんなの？」って．

(5) 「友人・知人との心理的距離」

「友人・知人との心理的距離」とは，現実世界で交流のある者との LINE を介したやりとりの中で心理的な距離を感じるというものである．この点に言及したのは，H・O さんの２名であった．

【H さん】携帯でも LINE 普通に使えるんですけど，けど，「グループに投稿しようかなー」と思っていたら，スマホの人は早いから．どんどん話が進んじゃって，結局投稿できないってことはよくあります．だから，ハブられているわけじゃないけど，携帯から LINE 利用している人は見る専門になっちゃいますね．

４．１．２．「新たな関係の中でのエピソード」

(1) 「理想的な出会いの実現」

「理想的な出会いの実現」とは，現実世界において関わりの無い者と LINE を介してやりとりする中で共通の趣味や考えを持っている者との出会いを実現させるというものである．この点に言及したのは，A さんのみであった．

【A さん】（きっかけは）知らない人の（ID）が自分のやつ（ページ）に入っていて．「え？」みたいな．「なんで，なんで（自分の ID を）知っているの？」みたいに思って．（中略）（出会いを実現させた理由は）2 時間くらい（相手と）やりとりしていたんですけど，悪い人ではないなと思って．そういう判断でやってて，そしたら本当に良い人みたいな感じだったんで．

(2) 「出会いの実現に対する後悔」

「出会いの実現に対する後悔」とは，現実世界において関わりの無い者と LINE を介して出会いを実現させた結果，後悔するというものである．この点に言及したのは，F さんのみであった．

【F さん】なんか mixi で声をかけられて．やりとりとかしていて「この人良いな」って思ったから，（LINE の）ID を教えたんですよ．（中略）最初は「いい人だなぁ」と思って（LINE で）やりとりしていたんですよ．大学行っているし，

NII-Electronic Library Service

The Society of Socio-Informatics

頭も良いし，なんかやりとりしていて合うなっていうか，お互い両想いだったんで．「付き合う？」みたいになって．付き合うことになって．で，実際会ったら全然違ってて．本当にきもくて．もう，無理です．（中略）それで（相手の LINE の ID を）ブロックして．そこからはもう大丈夫なんですけど．なんであんな奴とやりとりしていたんだろう…って，本当に後悔．

(3)「見知らぬ者との接触」

「見知らぬ者との接触」とは，現実世界において関わりの無い者から LINE を介して一方的に接触されるというものである．この点に言及したのは，A・F・G・H・S・T さんの６名であった．

【F さん】「斉藤さん」っていうアプリで電話して繋がって．「『LINE』の ID 教えて」って言われたから教えて．（そこから LINE で）やり取りしてたんですけど，写真送られてきて「高校生」って言っていたのに髭とか生えているし，明らか違うんですよ．「うえっ」って，「きもっ」って思って．でも昨日から電話来るし，今も来てて．無視ってます．最悪ですよ．
【S さん】この間，変な人がいきなり来て，勧誘されました．出会い系みたいなのが来て，勧誘．めっちゃしつこかったですよ．

４．２．「LINE の特性に関するもの」

「LINE の特性に関するもの」とは，LINE そのものの特性に由来する肯定的・否定的経験を指す．

(1)　「スムーズなやりとり」

「スムーズなやりとり」とは，LINE を介すことで他者と短時間で複数のメッセージのやりとりが可能になるというものである．この点に言及したのは，C・D・K・M・P・S・T さんの７名であった．

【C さん】メールより早く話ができるところが便利だと思います．テンポが良いというか，スムーズにやりとりできるので．
【K さん】メールとかだといちいち開かなきゃいけないけど，スマホとかだとメッセージ来たりすると画面に表示されるから，それが良いと思います．
【S さん】手軽で，メールより速い．とりあえず，速いのが良い．タッチで（相手からのメッセージを）見れるんで，テンポ良い．それが良いです．あと画像が貼れたりするのも良い．

(2)「ローコスト」

「ローコスト」とは，LINE を介すことで他者とのやりとりがコストをかけずに実現されるというものである．この点に言及したのは，D・G・T さんの 3 名であった．

【D さん】使ってますよ，LINE．早いし，無料だし，今も LINE で呼び出しされたんですよ．タダだからすごい良いですよ．

(3)「記録性・一覧性」

「記録性・一覧性」とは，LINE を介すことで他者とのやりとりが一定期間保存され（記録性），それを容易に俯瞰できるというものである（一覧性）．この点に言及したのは，J・O さんの２名であった．

【O さん】やっぱり自分が言ったことが残るから，どこまで話したとかわかるところがいいですね．（中略）普通のメールだと，前のやつをいちいち開かなきゃ（前やりとりした内容が）わからないじゃないですか．でも LINE だったら，全部ぱーって見られるし．

(4)「確実性」

「確実性」とは，LINE を介すことで相手が自身のメッセージを閲覧したか否かを容易に確認できるというものである．この点に言及したのは，L さんのみであった．

【L さん】良いところは，（相手がメッセージを）「読んだ」って確認ができるところですね．普通のメールとかだと相手が読んだかどうかわからないですけど，（LINE だと）「既読」っていうのでわかるので．（相手がメッセージを読んだかどうかを）あまり心配しなくてもいいところが良いですね．普通のメールだとそもそもちゃんと届いているのかどうかもわからないし，何度も見たりしちゃうじゃないですか．

(5)　「不可逆性」

「不可逆性」とは，LINE を介して不用意に送ってしまったメッセージを訂正・削除することができないというものである．この点に言及したのは，G・T さんの２名であった．

【G さん】（メッセージを）一度送っちゃったら消せないこと．だから送る前に何度も確認して，「よし！」みたいな．よく見ずに送っちゃうと「何これ？」みたいなトラブルになるから．

(6)「通話機能の不便さ」

「通話機能の不便さ」とは，音質の悪さ等 LINE の通話機能に対する不満全般を意味する．この点に言及したのは，F・I さんの２名であった．

【I さん】（LINE は）電話の電波が悪くて，途中で切れたり．たまに電話していると強制終了になったりするから….

(7)「通知の煩わしさ」

「通知の煩わしさ」とは，他者が更新した際に，LINE を介して送られてくる通知への不満全般を意味する．この点に言及したのは，E・J・T さんの 3 名であった．

【J さん】グループの（更新）通知が半端ない．通知 OFF にしておかないと立て続けに鳴るから，それで夜中起こされたりして，面倒．

(8)「個人情報の流出」

「個人情報の流出」とは，LINE を介して電話番号等の個人情報が流出することへの懸念を意味する．この点に言及したのは，B・G さんの２名であった．

【B さん】（LINE は）全然使ってないんですけど，勝手にアドレスとられてて．「友達かも？」って言われるのがちょっと….

(9)「電池消費」

「電池消費」とは，LINE を利用することによるネット端末の電池消費への不満全般を意味する．この点に言及したのは，D・R さんの２名であった．

【R さん】逆に，（LINE で）喋りすぎて，通知ありすぎて電

NII-Electronic Library Service

The Society of Socio-Informatics

源がすぐ落ちたりするところぐらい….

５．考察

本研究では目的に基づき，高校生 20 名に対して半構造化面接を行った．その結果，「他者とのやりとりに関するもの」「LINE の特性に関するもの」の 2 点から分類することが妥当であると思われた．以下，各々の結果について，また，2 点の関連性について考察を行う．なお，以下では高校生を全て青少年と表記する．

５．１．LINE を介した友人・知人とのやりとり

(1) 「親しい者だけとのやりとり」

「mixi」では異なるウチの仲間をマイミクとして登録し，増やし過ぎた結果，誰もが受け入れることのできる当たり障りのないことしか書けなくなってしまうことで「mixi 疲れ」がもたらされると指摘されていた（高橋ら，2010）．しかし LINE では，設定によって親しい者だけとのやりとりが可能になるので，「mixi 疲れ」のような経験をする機会は少なくなることが期待されていた（北尾，2013）．実際，LINE を利用するメリットとして複数の青少年が言及していた点の一つに，「親しい者だけとのやりとり」がある（E・G・N・R さんの 4 名）．具体的には，例えばグループ機能が挙げられ，グループ機能を用いることにより，青少年は自身にとって都合の良い者との関係を維持・強化していることが予想される．先行研究において，ネット上のメッセージのやりとりにより両者の親密性を高めることが可能であると指摘されていたことから，LINE でのやりとりにおいても同様のことが言えると思われる．しかし，「親しい者だけとのやりとり」においてもトラブルや問題が発生する可能性はあり，その一つに「友人・知人に対する気遣い」が挙げられる．

(2) 「友人・知人に対する気遣い」

面接より，LINE を利用する中での経験の一つとして「友人・知人に対する気遣い」が挙げられた．LINE は自身の電話帳を預けることで「親しい者だけとのやりとり」が可能になるが，その中でも青少年は否定的経験をしていることが明らかとなった．具体的には，LINE を介して親しい者からメッセージを受けとった際，「既読」表示機能によって自分がいつメッセージを確認したのか相手にわかってしまう為，早く返信をしなければいけないという義務感・束縛感について言及している青少年が複数いた（B・J・K・L・M・Q さんの 6 名）．これは土井（2009）が指摘する，携帯電話のメールの「即レス」によって引き起こされる友人・知人間のトラブルと似ている．一部の青少年にとって，親しい者から来たメールに「即レス」をしないことは，相手が自分の肩に置いてきた手を払う行為に似ていると土井（2009）は説明している．それゆえ，青少年は出来る限り親しい者から来たメッセージに対する「即レス」を心掛けていると言えるが，それは携帯電話のメールだけでなく，LINE でのやりとりにおいても同様であると思われる．上記のような背景から，本研究における一部の青少年は LINE 利用に伴う否定的経験について言及したと考察される．

５．２．「見知らぬ者との接触」

面接より，LINE は主に既存の友人・知人と繋がる為に利用されているメディアであると言えるが，一方で LINE を介して見知らぬ者と接触した経験のある青少年もいた（A・F・G・H・S・T さんの 6 名）．これは LINE がネット上のサービスであることにその理由があると思われる．また，LINE は ID さえ把握していれば相手と直接連絡をとることができる為，見知らぬ者と接触する可能性は高いと言える．上記の理由から，本研究において「見知らぬ者との接触」について言及した青少年が複数いたと推測される．見知らぬ者，特に業者と思われる者から LINE を介して勧誘された経験を持つ者もいた（例えば S さん）．このようなエピソードが見られたのは，ID を把握しているだけで相手と直接連絡を取ることが可能な LINE の特性が影響していると思われる．現在，LINE の運営会社は 18 歳未満の者が見知らぬ者と接触することのないよう，対策を講じているが，ID 情報のやりとりは LINE 以外のサイトでも行われている為，業者からの勧誘が無くなることはないと思われる．一方で，趣味や考えを持っている者と LINE を介して知り合い，出会いを実現させた青少年もいた．例えば A さんは，LINE 上で見知らぬ者からのメッセージを突然受信し，相手と LINE 上で何度かやりとりをした後，出会いを実現させた．なお，彼女が相手と LINE で知り合い，出会いを実現させるまでに要した時間は 2 時間ほどであり，即時性が高く，「スムーズなやりとり」が可能となるラインの特性がネットを介した出会いの実現を促していることが予想される．A さんの場合，出会いを実現させたことによる「サイバーストーカー」や「ストーカー」等の被害は無かったが，出会いの実現により，F さんのように不快な経験をする者もいる為，LINE を介した出会いは心理的側面から見てもリスクが高いと思われる．

５．３．他者との「スムーズなやりとり」が可能となる LINE

(1) 「友人・知人からの拒絶」

面接より，LINE を介すことで「スムーズなやりとり」が可能となる点について言及していた青少年が複数いた（C・D・K・M・P・S・T さんの 7 名）．これは LINE を利用するメリットとも言えるが一方で，LINE でのトラブルにも繋がると言える．例えば A さんは，LINE は即時性が高いにも関わらず，相手から即座に連絡がもらえないことに対する苛立ちについて言及していた．また E さんは，即時性の高い LINE で相手からのレスポンスが無かった為，拒絶（ブロック）されていると判断し，それに対する怒りの感情を述べていた．従来のネット機能では LINE 程の「スムーズなやりとり」を実現させることが難しい為，相手が自分に対して抱く感情を強く意識する機会はそこまで多くなかったと言える．しかしながら LINE は即時性が高い故に，青少年はそこでのやりとりを通じて相手の言動や感情を過度に意識してしまうと考えられる．その点が本研究

NII-Electronic Library Service

The Society of Socio-Informatics

において，LINE 利用の否定的経験として語られたと思われる．

(2) 「記録性・一覧性」の高さと「不可逆性」

面接より，LINE を利用する利点の一つとして，その「記録性・一覧性」の高さが挙げられた．例えば J さんは「（やりとりの）履歴が見られるから，どこまで会話したってわかるし，メールよりやりとりが楽」と述べ，LINE を利用することで携帯電話やスマートフォンのメールよりも相手と滞りなくやりとりができる点について評価していた．しかし一方で，例えば G さんは「（メッセージを）一度送っちゃったら消せないこと．（中略）よく見ずに送っちゃうと『何これ？』みたいなトラブルになる」と述べ，LINE の特性がトラブルを引き起こす可能性について言及していた．ネット上のやりとりは文字コミュニケーションが中心であることから相手にメッセージを送信する際，自分の納得がいくまで何度もメッセージの編集をし，戦略的な「自己呈示」を実現させることが可能である（杉谷，2010）．しかしながら LINE の場合，即時性や記録性等が高い為，内容をよく確認せずに発信をしてしまい，また，それを削除することが出来ずに，意図しない「自己呈示」を行ってしまう可能性が面接より明らかになったと言える．

６．今後の課題

本研究では高校生 20 名に対して半構造化面接を行い，彼・彼女らの LINE での肯定的・否定的経験を基にその実態について整理した．LINE は主にスマートフォンから利用されていると言えるが，携帯電話から LINE を利用している一部の青少年は疎外感についても言及していた（H・S さんの２名）．具体的には，携帯電話から LINE を利用する際，スマートフォンに比べていわゆる「即レス」を実現させることが難しく，既存の友人・知人とのやりとりにリアルタイムに加わることができない．そのような理由から，彼女らは疎外感について言及したと思われる．しかし先行研究より，青少年へのスマートフォンへの普及は急速に進んでいる為，今後携帯電話からの LINE 利用により疎外感を抱く者は減少することが予想される．また，親しい者との LINE でのやりとりに加わることができない疎外感に耐え切れず，携帯電話からスマートフォンに変更する者もいると考えられ，LINE 利用に伴うトラブルは増加すると思われる．それゆえ，今後の研究としては質的調査に限らず量的調査も行い，その実態を多面的に明らかにしたいと考える．

注

1)筆者が授業を担当している 18～19 歳の専門学校生 76 名を対象に簡易的な匿名でのアンケート調査を実施したところ，現在最も利用しているサイト・アプリとして半数近くの 34 名が LINE を挙げていた．

2)LINE を管理運営する NHN Japan（現在の LINE）は，2012 年 12 月に au 向け Android 端末で 18 歳以下のユーザーによる ID 検索機能を制限すると発表した．

謝辞

本論文を作成するにあたり，ご指導いただきました，群馬大学社会情報学部　伊藤賢一先生に心よりお礼申し上げます．

参考文献

1) デジタルアーツ（2012）：「未成年の携帯電話・スマートフォン使用実態調査」<http://www.daj.jp/company/release/data/2012/071201_reference.pdf>Accessed 2012, December 31
2) 土井隆義（2009）：『キャラ化する/される子どもたち—排除型社会における新たな人間像』岩波書店
3) 加藤千枝（2012）：「青少年女子のメールボックス利用の実態 ： 9 名の女子中高生の半構造化面接結果と考察」『社会情報学』，1(2)
4) 北尾準（2013）：「急成長するＬＩＮＥの裏側で加速するフェイスブック離れ」<http://www.excite.co.jp/News/it_g/20130225/Economic_9348.html?_p=1> Accessed 2013, March 8
5) 木内泰・鈴木佳苗・大貫和則（2008）「ケータイを用いたコミュニケーションが対人関係の親密性に及ぼす影響 ： 高校生に対する調査」『日本教育工学会論文誌』，32(Suppl.)，169-172
6) ライフメディア（2012）：「LINE に関する調査」<http://research.lifemedia.jp/2012/09/120905_line.html> Accessed 2012, December 31
7) 松田美佐（2007）：「若者の友人関係と携帯電話利用」『子どもとニューメディア』日本図書センター
8) 内閣府(2013)：『青少年のインターネット利用環境実態調査』<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf/kekka_g.pdf> Accessed 2013, March 8
9) リクルート進学総研（2012）：『高校生のＷＥＢ利用状況の実態把握調査 2012』<http://souken.shingakunet.com/research/2012_smartphonesns.pdf> Accessed 2012, December 31
10) 総務省（2009）：『ブログ・SNS の経済効果に関する研究報告書』<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2009/2009-I-13.pdf> Accessed 2013, March 8
11) 杉谷陽子（2010）：「インターネットにおける自己呈示・自己開示」『インターネット心理学のフロンティア』誠信書房
12) 高橋利枝・Livingstone Sonia(2010)：「子供・若者と情報通信メディアに関する国際比較研究（継続）−若者とソーシャル・ネットワーキング・サイト（SNS）に関するエスノグラフィーから−」『電気通信普及財団研究調査報告書』，24，21-31
13) 富田英典（2002）：「デジタルコンテンツが形成する新たな人間関係への考察： Intimate Stranger とデジタルアウラ」『情報処理学会研究報告』，53，9-18

NII-Electronic Library Service